

第14期レイカディア大学地域貢献活動アンケート調査のまとめ

第14期サポートの会
地域活動部会アンケート委員会

1. はじめに

レイカディア大学は、滋賀県に在住する社会参加意欲の高いシニアが、明るい長寿社会の創造を目指し、仲間と語らう中で、新しい知識・教養・技術を身につけ、地域の担い手として活躍できるよう支援している場です。

この調査は、レイカディア大学と協働して学生の支援を行うサポートの会の地域活動部会が、草津キャンパスの卒業生に対し毎年アンケート調査を実施しているもので、今年が10回目となります。調査の目的は、地域で活躍している卒業生の地域貢献活動実態把握と、レイカディア大学の存在意義を明らかにするために実施しています。

前期より、趣味の活動や生涯学習、今後生かしてみたいスキルについても別シートにて記入して頂いています。アンケート調査結果で記載しているように、前期より卒業生の地域貢献活動時間及び一人当たりの活動時間も増加し、入学後の学びを通じて地域貢献活動を開始したり活動頻度を増やしており、卒業生の地域活動が継続・強化されている実態を確認することができ、本調査は大変意義があったものと考えます。

なお、あえて問題点として挙げるなら、卒業生の高齢化・連絡手段の多様化（LINE 活用等）により、メールでのデータの受け渡しに一部支障があったことや調査方法のIT化（Google フォーム活用等）が進んでいないことがあります。

2. 調査対象

(1) 対象者数（令和7年4月現在の対象人数*）

第42期卒業生 [令和 4年3月卒業]	107名
第43期卒業生 [令和 5年9月卒業]	120名
第44期卒業生 [令和 6年9月卒業]	119名
対象人員計	346名

*集計は各期・各学科の担当者から報告を受けた人数を基に行っています。

推移（サポートの会の期で表示）

11期(2021年)	12期(2022年)	13期(2023年)	<u>14期(2024年)</u>
334名	325名	322名	<u>346名</u>

(2) 調査対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日までの1年間です。

※コロナ感染症の5類移行並びに卒業月が9月に戻ったことから従来の調査期間にしています。

3. アンケート調査結果

(1) 全般について 【表－1】《グラフ1》

- ・ 今期の対象者数は前期比 24 人増、活動報告者は 268 人、前年より 27 人増で 111%でした。活動者割合は約 88%で、前期より 8%増となっています。
- ・ 年間総活動時間は 37,113 時間、前期比 114%まで増加しており、コロナ5類移行により地域活動が徐々に活発化して来たものと思われます。
- ・ 活動報告者 1 人当たりの活動時間は 138 時間、前期比 103%の微増となりました。

全体としては、コロナ禍前『活動者の割合 10 期：92%⇒14 期：88%』の値には及んでいないものの、一人当たりの活動時間は、卒業生の努力により従来から微増しています。

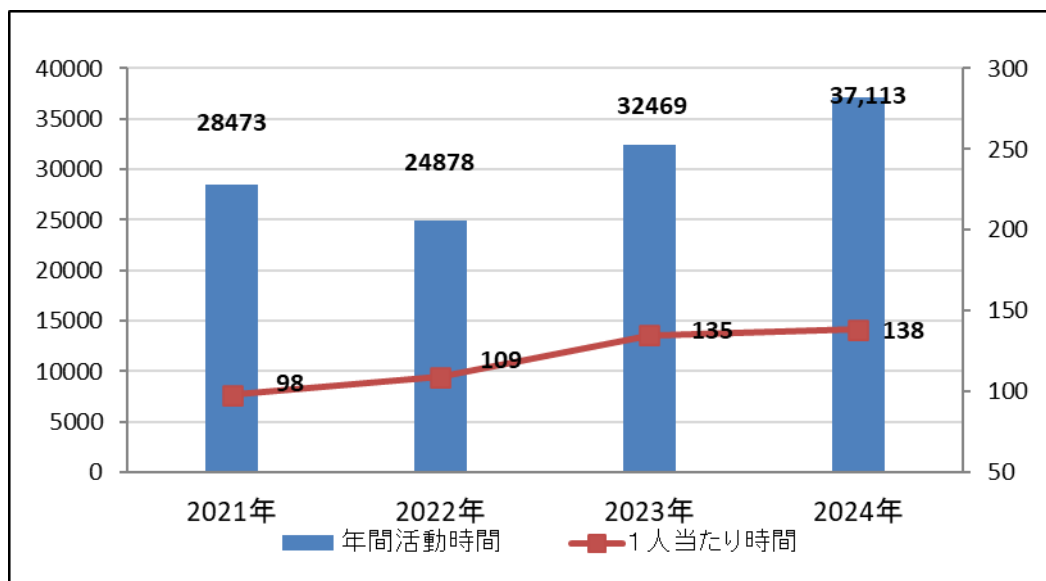
【表－1】 年間活動時間

	第14期(2024年)				第13期実績(2023年)	第13期との比較	
	42期	43期	44期	合計		前期比	前期差
対象者数(人)	107	120	119	346	322	107%	24
活動報告者(人)a	72	102	94	268	241	111%	27
未活動報告者(人)b	5	9	22	36	58	62%	-22
連絡なし(人)c	30	8	3	41	23	178%	18
活動者割合 a/a+b	94%	92%	81%	88.2%	80.6%	109.4%	7.6%
年間活動時間 d	9,463	16,554	11,097	37,113	32,469	114%	4,644
1人当たりの年間活動時間 d/a	131	162	118	138	135	103%	4

※参考 第10期(2020年)実績 年間活動時間：40,994 時間

活動報告者：307 人 1 人当たりの年間活動時間：134 時間 活動者割合：92%

《グラフ1》 年間活動時間の推移



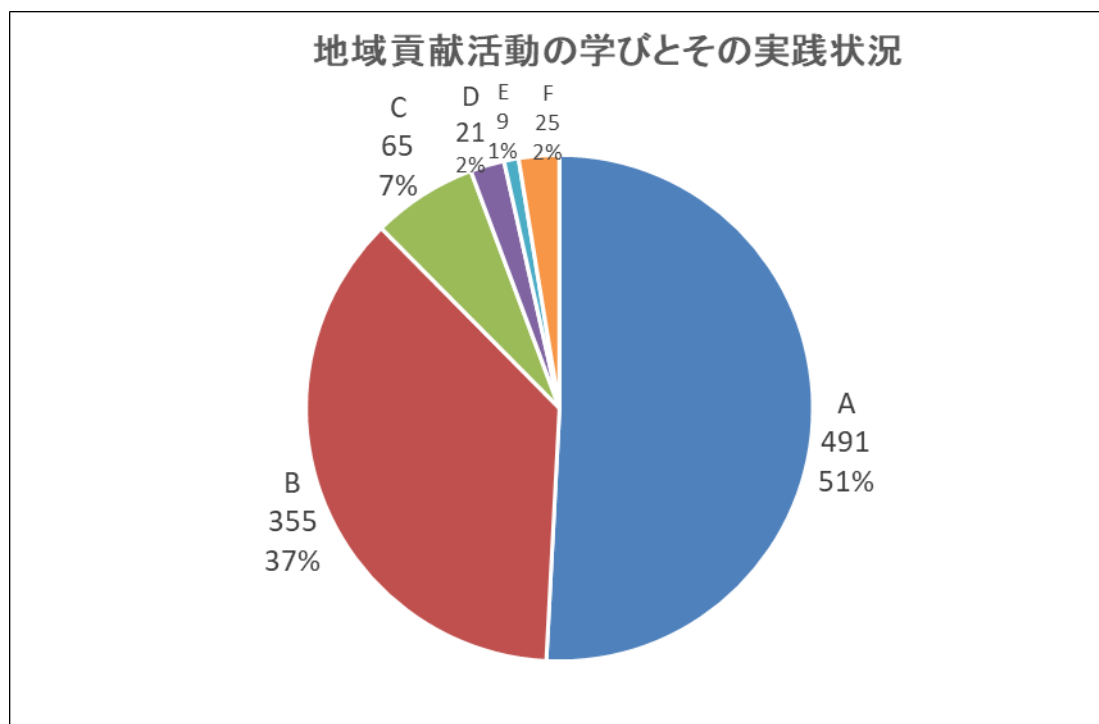
(2) 地域貢献活動の学びとその実践状況 【表－2】 《グラフ2》

- ・ 今期より大学で学び・体験した地域貢献活動が、どのように実践されていたのか、表－2に示すA～Fの設問をし、その活動件数を集計しグラフ2にまとめました。
- ・ Aの入学後地域貢献活動を始めた、Bの入学後地域貢献活動回数が増えたを合わせると88%にもなり、大学での学びが地域貢献活動の実践に多大の貢献をしていることが示されています。

【表－2】 大学での学びと各活動の実践状況の設問

A: 入学前は、活動していなかったが、大学での学び・体験を契機に、活動を始めた
B: 入学前から活動している。入学後、活動内容・回数が増えた
C: 入学前から活動している。入学後も、活動内容・回数はほとんど変わらない
D: 入学前後から活動しているが、体調その他で回数が減った
E: 入学前後から活動しているが、諸般の事情で活動していない
F: 地域貢献活動は、特には行っていない

《グラフ2》 大学での地域貢献活動の学びとその実践状況



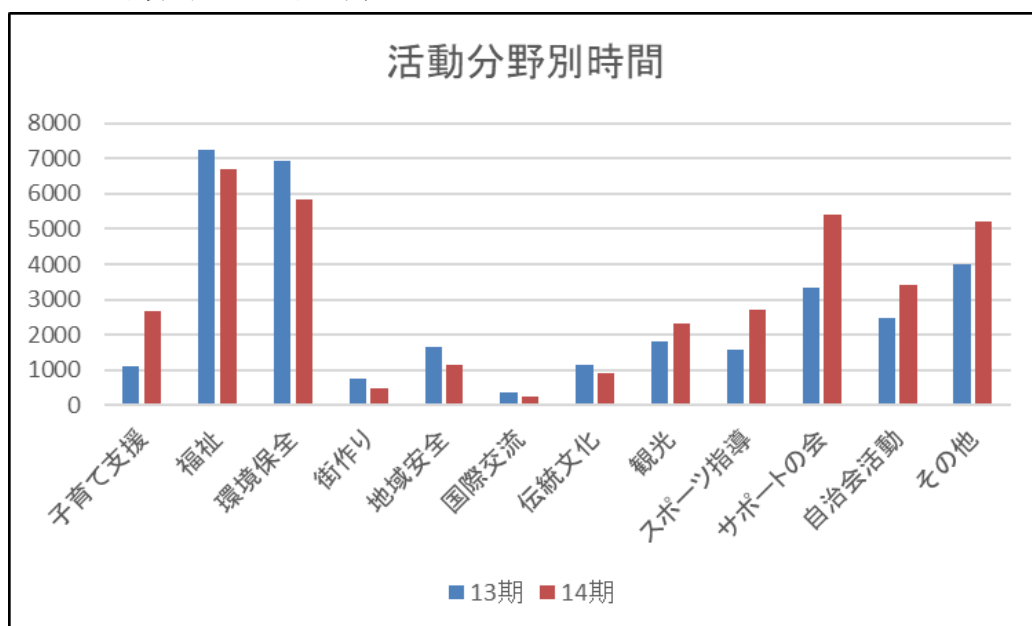
(3) 活動分野別集計 【表－3】 《グラフ3》

- ・例年と同様に、アンケートの選択項目の12の活動分野に分けて集計しました。
- ・各活動分野活動時間の多少の傾向は、前期と同じであるが、福祉、環境保全の活動時間が1, 2位を占めるも前期比減となっている一方、子育て支援、スポーツ指導、サポートの会、自治会活動、その他の活動時間が、前期に比べ大幅に増加しており、より広がりをもった活動になっていることが窺えます。

【表－3】 活動分野別の活動時間・構成比

活動分野	具体的な活動項目例	14期活動時間	14期構成比	13期活動時間	13期構成比
① 子育て支援	保育園・小学校での学習支援。学童保育。地域教育協議会での工作指導	2,677	7.2%	1,125	3.5%
② 福祉	福祉施設での慰問活動。福祉施設のイベント開催支援活動。病院・福祉施設での傾聴ボランティア。高齢者・障害者の為の自助具製作。高齢者の生活相談。独居老人への給食配達。民生委員等。	6,712	18.1%	7,237	22.3%
③ 環境保全	公共施設の樹木の剪定・除草・清掃。河川清掃。里山保全。公共施設での花壇作り。琵琶湖岸のヨシ刈り。琵琶湖外来魚駆除。桜並木の保全。温暖化対策の啓発活動等。	5,846	15.8%	6,942	21.4%
④ 街作り	商店街役員。街活性化イベント開催の運営支援。観光施設の整備。史跡の保存等。	491	1.3%	752	2.3%
⑤ 地域安全	自衛消防隊員。防犯パトロール。夜回り。児童の登下校時の見守り。児童の登下校時の交通安全指導等。	1,157	3.1%	1,652	5.1%
⑥ 国際交流	国際交流協会役員。外国籍児童への生活支援。在留外国人への日本語指導等。	265	0.7%	376	1.2%
⑦ 伝統文化	神社・仏閣の護持運営員。伝統的祭り(大津祭り、宿場祭り等)の運営委支援。古文書、文化財の調査等。	915	2.5%	1,164	3.6%
⑧ 観光	観光ボランティアガイド。史跡巡りコース作り等。	2,331	6.3%	1,825	5.6%
⑨ スポーツ指導	百歳体操。各種スポーツの指導者等。	2,721	7.3%	1,578	4.9%
⑩ サポートの会	サポートの会の会議、調査、園芸クラブ作業、選択講座の助手活動、サポートの会ボランティアの日参加等。	5,395	14.5%	3,347	10.3%
⑪ 自治会活動	自治会役員。自治会主催の各種活動(住民交流会、防災、環境整備、人権教育等)等	3,410	9.2%	2,490	7.7%
⑫ その他	図書館司書ボランティア。各種学芸の指導者。パソコン指導。囲碁、将棋の指導。図書館、美術館の企画・運営。日本舞踏の指導。写経・書道の指導等。	5,193	14.0%	3,982	12.3%
合 計		37,113	100%	32,469	100%

《グラフ3》 活動分野別 活動時間



(4) 学科別集計 【表－４】 《グラフ４》

- ・園芸学科は例年通り環境関連活動の比率が多くなっています。大学で学んだ知識・経験を生かした活動などに多くの時間を充てています。
- ・陶芸学科は陶芸で学んだ技術を活かし、例年通り在学生への陶芸サポート、個人の特技を生かしての活動など幅広く活動に参加しています。
- ・地域文化学科は、伝統文化や地域のスポーツ指導やデジタルサポートの活動、さらに国際交流や観光活動への積極的な取り組みなど幅広く地域の活動に貢献しています。
- ・健康づくり学科は民生委員・高齢者支援や児童福祉などの福祉活動に多く携わっています。
- ・びわこ環境学科は、福祉・環境保全など地域の環境整備に関わる活動をしています。
- ・各学科とも、大学で学んだ事や個人のスキルを活かして多方面へ活動を広げていることがわかります。

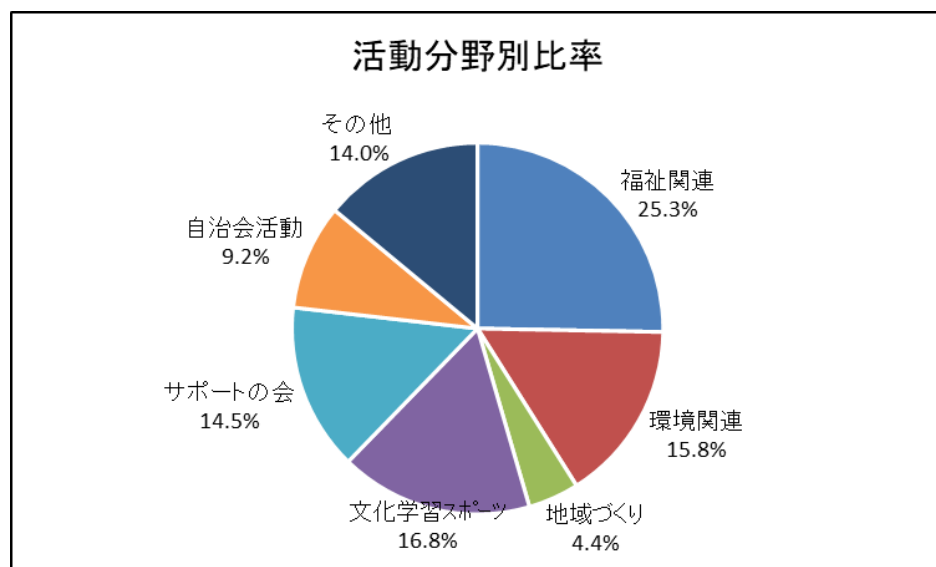
【表－４】 学科別活動時間 集計／比率

単位：時間

	園芸A	比率 %	園芸B	比率 %	陶芸	比率 %	地域文化	比率 %	健康づくり	比率 %	びわこ環境	比率 %	合計	比率 %	活動分野集約
福祉関連	1,035	22	2,291	34	1,463	25	1,625	16	1,957	35	1,018	23	9,389	25.3	①②
環境関連	1,642	35	1,641	25	271	5	334	3	549	10	1,410	32	5,846	15.8	③
地域づくり	63	1	375	6	22	0	303	3	597	11	288	7	1,648	4.4	④⑤
文化学習スポーツ	805	17	723	11	100	2	3,528	36	788	14	288	7	6,232	16.8	⑥⑦⑧⑨
サポートの会	640	14	1,179	18	1,615	27	1,153	12	300	5	508	12	5,395	14.5	⑩
自治会活動	372	8	111	2	1,375	23	907	9	111	2	534	12	3,410	9.2	⑪
その他	166	4	326	5	1,036	18	2,028	21	1,335	24	302	7	5,193	14.0	⑫
合計	4,723	100	6,646	100	5,882	100	9,878	100	5,637	100	4,348	100	37,113	100	

網掛け：各学科の活動比率が高いもの

《グラフ４》 活動分野別 活動時間比率



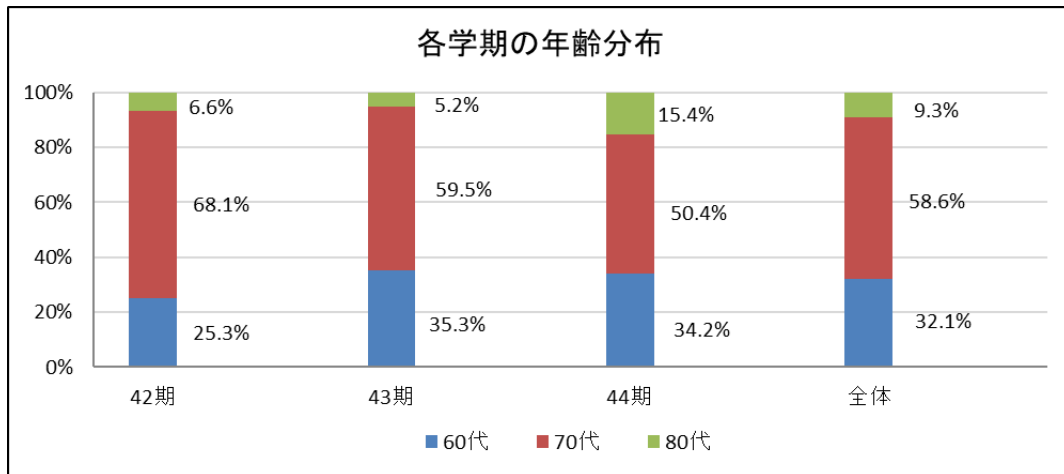
活動分野集約(12→7)

関連7分野	詳細12分野
・福祉関連	①子育て支援 ②福祉
・環境関連	③環境保全
・地域づくり	④街作り ⑤地域安全
・文化学習スポーツ	⑥国際交流 ⑦伝統文化 ⑧観光 ⑨スポーツ指導
・サポートの会	⑩サポートの会
・自治会活動	⑪自治会活動
・その他	⑫その他

(5) アンケート実施の学期別年齢分布状況

- ・アンケートを記入して頂いた卒業生（４２期～４４期）の年齢層をグラフ化しました。
- ・高齢化社会が進む中で、レイカディア大学の卒業生も同様におおよそ 70 代 6 割／60 代 3 割／80 代 1 割の構成になっており、70 代を中心としたシニアボランティアによる社会貢献活動が行われていることが垣間見えます。

《グラフ 5》 各学期（42 期～44 期）の年齢分布



（6）サポートの会活動について

サポートの会はレイカディア大学の卒業生で構成されている組織です。大学の存在をより多くの県民に知ってもらう PR 活動や大学事務局・在学生との交流サポートを中心に、学生募集活動の支援・在学生対象のパソコン教室や各種講習会等を開催しています。また、広報冊子を作成し、社会の皆様への情報提供もしています。

年に一度、レイカディアの日を設定して、守山市にある『びわこ地球市民の森』で竹林・樹木の間伐を行いました。今期は、在学生・卒業生の多数参加（約 160 名）がありました。また、活動後は「モリックゲーム」で交流を図りました。

今後ともレイカディア大学および在学生へのサポート活動を軸に、地域への貢献活動を行っていきたいと考えます。

4. おわりに

本アンケート調査から、

- ① 当期の地域貢献活動時間は、ようやく3ヶ月前の水準まで戻り、次期以降更に活発化されることが予想される
- ② 大学での学びが地域貢献活動の実践に多大の貢献をしている
- ③ 各分野の地域貢献活動が、より広がりを持ってきた
- ④ 各学科とも、大学で学んだ事を活かして活動を広げている
- ⑤ 70 代を中心とした地域貢献活動となっている

こと等が確認できました。

上記のアンケート調査の報告には含めていませんが、在学生を含めた各種の同好会活動（城郭探訪、フォトウォーク、グランドゴルフ、書道、詩吟、囲碁等々）が実施されていて、卒業後も在籍時と同様に在学生・卒業生間のつながりが途絶えることはありません。これらの結びつきがそれぞれの地域で実施されている地域ボランティア活動の継続や拡大に大きく貢献しているものと考えます。

改めて、この調査が皆様のレイカディア大学に対するご理解を深め、さらに卒業生および在学生の地域貢献活動への意欲がますます強まるきっかけになるよう祈念します。

最後に本アンケート調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

以 上